

2023年度 まことこども園 自己評価公表シート

1・園の教育保育目標

「優しい思いやりのある子」

「明るい元気な子」

「何事にもがんばる子」

を教育保育目標とし、乳幼児期にふさわしい環境の下で、友達や保育者と楽しく充実した生活を営み、そして人間として生きる力の基礎となる、豊かな心、意欲、態度を育てること、すなわち『こころの育ち』を支えることを本園の目標としています。

2・2023年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した、園評価の具体的な目標や計画

保育棟

乳児期の愛着形成を大切にし、安心して生活できる環境を作っていく。月齢からくる発達の個人差を理解し、一人一人に適した保育を行う。

幼児棟

遊びの中で体力をつけ友達関係を広げて、たくさんの関りを通じて挑戦する意欲を養う。

生活リズムを整える事も保護者と連携を取り進めていく。

職員

子ども達に丁寧接する中で、心の機微を捉え保育を行っていく。体調管理に留意しながら、引き続き研修など自己研鑽を重ねていく。

3・評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
愛着形成を基本とし、子供たちが安心して毎日登園出来るよう、一人一人の状況をよく把握する。	A	昨年5月にコロナの制限が解除され、子ども達とも密に触れ合える時間が戻ってきた。発達段階を理解しながら保育を進めることが出来ている事で、信頼関係が生まれ安心して過ごせている。引き続き寄り添いながら保育を行っていきたい。
食事や運動を基本とし、日々の保育の中で友達や保育者との関りを楽しむ。子どもたちの意欲を引き出し、音楽・造形・英語など何事も楽しむ。	A	全学年共通して外で遊ぶ姿がよく見られた。自由に戸外遊びをするだけでなく、子ども達の意欲を高められる様に様々な言葉掛け、環境づくりを工夫しながら行う事ができた。歌唱指導は外部講師にも助言いただきながら積極的に取り組むことができた。
職員の資質向上の為に、研修等に参加し、乳幼児理解に努める。	B	AED・救急救命の講習は引き続き受講できている事で、今年度いざという時に迅速に対応できた。保育園も含め全職員が受講出来る様にしたい。保育研修の受講回数は全体的に少なかったため、次年度は積極的に保育への知識を深めていきたい。

怪我、事故、災害時には職員全員が行動できるよう、安全に関する項目の共通理解を図る。また、園内環境整備にも目を配る。	B	今年度は3学期に子どもたちの怪我が相次いだ時期があった。午後の時間に多かったため、預かり保育のタイムスケジュールを見直した。子ども達の体力も見極め保育を組み立てたい。また、園内の環境整備も進めていきたい。
保護者との信頼関係の構築に努める。	A	年度末に関係者評価を行い、保護者の評価、意見、要望を知ることができた。結果も細かく公表出来たので、積極的に改善をおこなっていききたい。保護者からの連絡に対しても、職員に報・連・相を徹底している為、連携ミスはほとんど起こらなかった。

4・園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの制限が解除になり、子ども達にとって活動しやすい環境が戻ってきたのかと感じている。感染症対策なども引き続き行う事で、今年度は病気の大きな流行を未然に防ぐことができた。 ・不適切保育が各地で起こり、保育士の立ち振る舞いが大きく取り上げられた。園では職員にセルフチェックを行い、保育の重要性を確認したり、自分たちの保育を見直した。 ・救急救命の講習を受講していたおかげで、園児の発作に立ち会った職員が連携して対処する事ができた。いつ起こるかわからない中で常に知識を更新していく大切さを身に染みて感じた。 ・職員の働き方改革に取り組んでいる。業務内容の精査や、仕事の分担など様々な角度からアプローチする事で、退勤時間を早めることが出来ている。 ・子育て支援に力を入れ、職員も増員して対応した。来園して下さる方の子育ての悩みや、園への質問などもその場でお答えする事ができた。今後も子育て支援を大切に考えていきたい。

5・今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全・衛生面の強化	遊具・保育室等、環境の見直し・点検(安全面に関して)。怪我への対応を全員がスムーズに出来る様促していく。また、園内に防犯カメラを増設し事後対応も正確に行えるように努める。
職員の自己研鑽	筑波大学 生活支援学研究室との連携。 消防署との連携 (AED使用講習等)。 自身で学びたい保育の研修への積極的参加。研修で得た知識・技能の共有。
小学校との連携	小学校へよりスムーズに進学出来るよう、交流を図る。 小学校の先生にも園での様子を見て頂き、理解してもらえよう進めていきたい。また、小学生と園児が接する時間を、引き続き設けていく。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分でない
D	取組が不十分である